

北岡理事長が「国際女性会議WAW! 2016」に登壇

01



ハイレベル・ラウンドテーブル会合で議論に参加する北岡伸一JICA理事長



ハイレベル・ラウンドテーブル会合での議論の様子

昨年12月13日と14日に、世界各地から政治やビジネスをけん引するリーダーや有識者を招き、女性の活躍促進のための方策を世界に発信することを目的とした「国際女性会議WAW! 2016」※が東京都内で開催されました。

「平和・安全保障における女性の参画とエンパワメント」をテーマとするハイレベル・ラウンドテーブル会合では、世界津波の日特別大使の山中燐子さんがモデレーターを務め、ジャン・プラスハート・オランダ国防大臣、メラニー・バービア・ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所所長らが参加し、平和・安全保障分野への女性の参画やリーダーシップ発揮に向けた具体的な方策について議論しました。

同会合に登壇した北岡伸一JICA理事長は、冒頭、アフガニスタンの女性警察官支援とフィリピン・ミンダナオ島バンサモロ地域の女性支援の事例を紹介。その上で、JICAの経験を活かして、①紛争中や紛争後、あるいは災害後には、女性に対

するさまざまな暴力が横行するが、その対策として警察官、特に女性警察官の育成が有効であること、②貧困女性の社会的・経済的自立を支援することが、紛争や災害からの復興過程の混乱した社会を安定させるために役立つこと、③紛争後に安定した社会を構築したり、災害に備えて防災計画を策定したりする際に、女性を含む多様なステークホルダーの視点を取り込むことが重要であることなどを提示しました。

北岡理事長は、男性を含む社会全体が女性の役割に対する意識を向上させる必要性にも言及。JICAは非常時に限らず、平時からジェンダー平等に向けた支援を続けると表明しました。

その後、全体会合ではハイレベル・ラウンドテーブルの議論の概要と提言が共有されました。「平和・安全保障における女性の参画とエンパワメント」について、紛争下や災害時のリスクを削減するためには、女性・女児のニーズに関する知識や経験を持つ女性の力が有効であり、特に紛争予防において女性が重要な役割を果たす可能性があることなどが報告されました。

※World Assembly for Women

多くの難民を受け入れるヨルダンの改革を支援

02



署名式の様子。左から順に小林JICAヨルダン事務所長、櫻井駐ヨルダン大使、ファーフーヨルダン計画・国際協力大臣

JICAは昨年12月、ヨルダン・ハシエミット王国政府と、「金融セクター、ビジネス環境及び公的サービス改革開発政策借款」について300億円を限度とする円借款貸付契約に調印しました。

ヨルダンは、パレスチナやイラクからの難民に加え、65万人に上るシリア難民を受け入れており、直近の4年間で人口が約1.5倍に増加。政府の財政負担の増加により、水・電力などの公共サービスの提供が困難になりつつあります。また、金融セクターやビジネス環境の改善による自立的な経済発展の追求も重要な課題です。

本事業は、ヨルダン政府による二つの改革を支援するもので、「金融・ビジネス環境」分野では債券流通市場の整備や企業の信用格付制度の導入など、「公的サービス」分野ではエネルギー価格に連動した電力料金の導入や再生可能エネルギーの活用などを通じた財務効率性の改善を目指します。これらの長期的な改革を支援するとともに、短期的には周辺国の騒乱の影響で増加しているヨルダンの財政負担の軽減に貢献し、同国の難民受け入れ、公的サービスの維持を支援します。

ネパール初の道路トンネルを建設

03



署名式でアリエル財務省対外協力局長(右)と握手する佐久間JICAネパール事務所長(左)。関係関係も同席した

JICAは昨年12月22日、ネパール連邦民主共和国政府との間で、「ナグドゥンガ・トンネル建設事業」が対象となる166億3600万円を限度とする円借款貸付契約に調印しました。

本事業は、カトマンズと主要都市およびインド国境までを結ぶ幹線道路上にあるナグドゥンガ峠にトンネルを建設し、運輸交通網の円滑化を図ることを目的としています。

人や物の移動の多くを道路に頼っているネパールでは、輸出入の約6割を陸続きの隣国インドに依存しています。本事業で整備する道路はインドとの陸上交易の約6割を担う重要路線ですが、ナグドゥンガ峠では急な勾配やカーブによる交通渋滞が問題となっています。

そこで、本事業では同時に約2.5キロメートルの2車線トンネルを建設。これにより、ナグドゥンガ峠を通過する時間が約3分の1に短縮される見込みです。物流の円滑化が地域の発展に貢献することが期待されます。